



今月の案内人
相生町 河合全勝さん



★大弘法萬福寺
(相生町)



歴史博物館で常設展示されている
花の撓の模型(平成7年制作)。毎年、
その年のものを見る場合は大弘法
萬福寺へ(期間▶5月8日~10日)。



その26

花の撓(大弘法萬福寺)

毎年5月8日に、名古屋の熱田神宮で豊年祭という、その年の天候や作物の出来具合を占う行事があります。占った結果は、神様の人形や作物の模型で人々に示されます。これを「おためし」や「花の撓」といいます。

ここ大弘法萬福寺では、熱田神宮のおためしを再現しています。当日早朝に示されるおためしと「熱田神宮豊年祭之図」という図をもとに、私たち家族が、その日の昼までには作り上げます。この寺では、大正時代から続けられており、市内では唯

一のものです。

二つの神棚には、赤、白、青の服を着た神様の人形がいくつか飾られ、その数や位置が一年間の天気の傾向を示し、また、作物の模型はその年の農作物の出来具合を表します。赤の人形は晴れを示します。白と青の人形は、風や雨を示すとも言われていますが、それは自分で判断する必要があります。見た人は、並べられた神様や作物を見て、それを自分の経験と照らし合わせて、それぞれが天候や作物の出来具合を解釈するのがです。だから「おためし」と呼ばれているのです。

今では、田植えの時期が早くなり、5月8日のおためしのころには田植えが終わっている場合が多いのですが、昔は田植えが6月で稲刈りは10月。おためしを見て、今年は風(台風)が強そうだから早めに稲刈りしようとか、この作物を作ろうとか判断していたようです。

近年では、東海豪雨のあった年は、赤の人形が少なかったようです。さて、今年の天候や作物の出来具合はどうなるのでしょうか。

